



平成29年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果



能代市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）
- ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査



(5) 調査期日

平成29年4月18日(火)

(6) 調査を実施した学校・児童生徒数

| | 対象学校数 | 学校数（実施率） | 児童生徒数 |
|-----|-------|-----------|-------|
| 小学校 | 11校 | 11校（100%） | 372人 |
| 中学校 | 7校 | 7校（100%） | 414人 |

2. 教科に関する調査結果

1 概要について

小・中学校とも良好な状況です

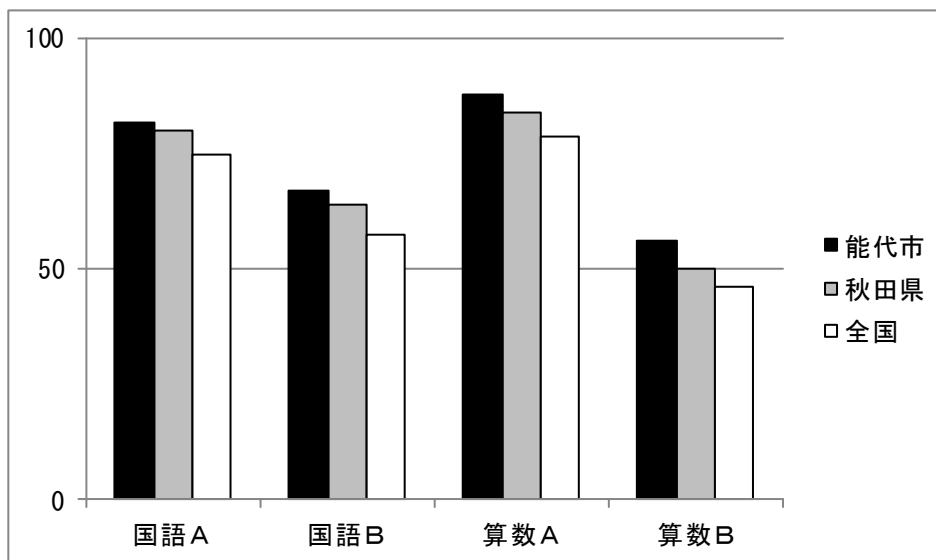
(1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・Bの全てで全国平均を大きく上回っています。特に小学校国語B、算数A、B及び、中学校国語B、数学A、Bは全国平均を10ポイント近く上回っています

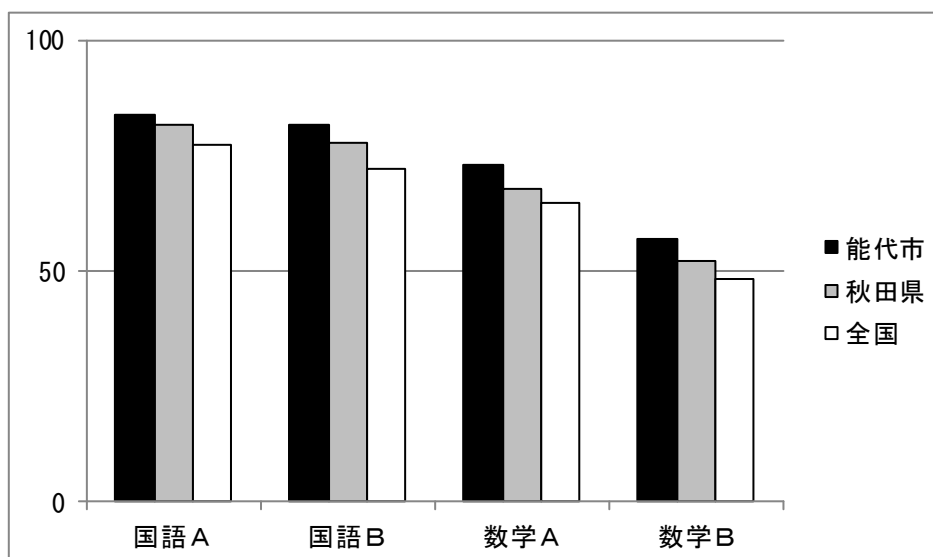
(2) 秋田県比較について

小・中学校ともに、国語A・B、算数・数学A・Bの全てで秋田県平均を上回っています。

(3) 小学校6年生平均正答率

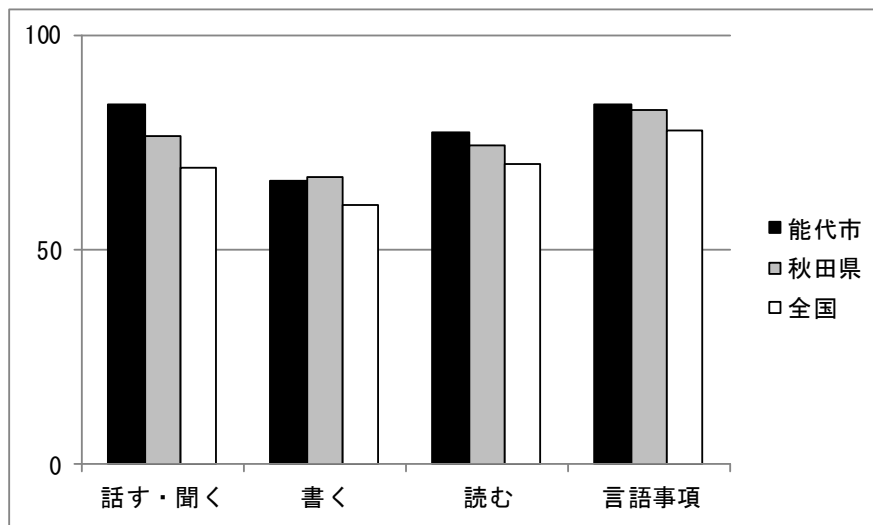


(4) 中学校3年生平均正答率



3. 教科に関する調査結果(小 国語A)

1 小学校国語Aについて（主として知識に関する問題）



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

3領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均を上回ったものの、「書くこと」で秋田県平均をわずかに下回りました。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全15問中、全国平均を下回ったのは1問、秋田県平均を下回ったのは2問でした。



ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる、言語についての知識・理解・技能が良好です。 【設問5ア、5イ】



「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にしてくわしく書く」「手紙の構成を理解し、後付けを書く」といった書くことの問題が、秋田県平均を下回っていました。 【設問2一、2二】



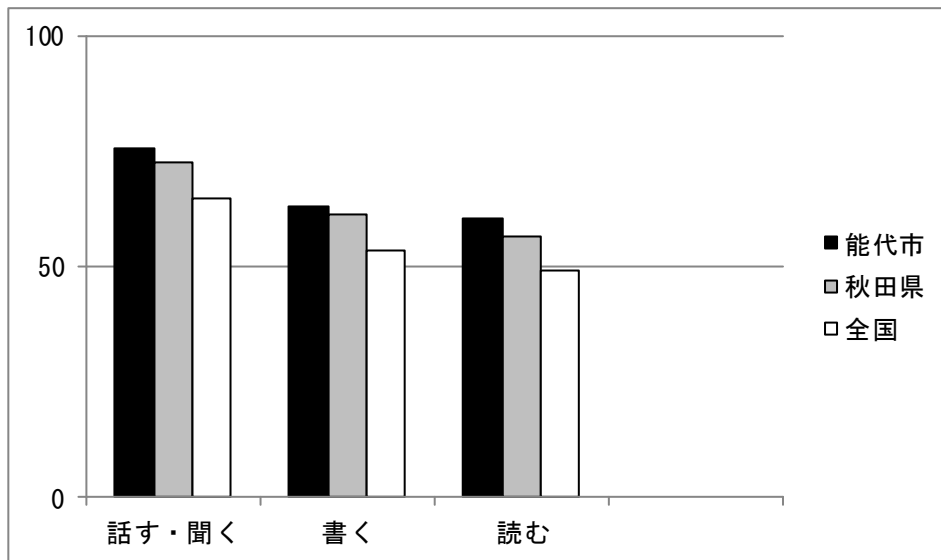
指導改善のポイントとして学校での取組

お礼の手紙を書く問題でしたが、日常生活の中で依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章を書く機会が少ないため、意図的に書く場面を設定していく必要があります。その際、相手や目的に応じて、適切な言葉遣いで書くことや、表書き、後付け等の基本的な形式についても指導する必要があります。

学校行事の案内や地域の方々へのお礼など、手紙を書く機会をもつことで身に付けさせてほしいです。

3. 教科に関する調査結果(小 国語B)

1 小学校国語Bについて（主として活用に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全10問中、秋田県平均を下回ったのは2問でした。



「話すこと・聞くこと」の問題は、全国平均・秋田県平均をすべて上回りました。

【設問1一、二、三】



「自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える」「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」といった読むことの問題の正答率が低かったです。

【設問3二、3三】

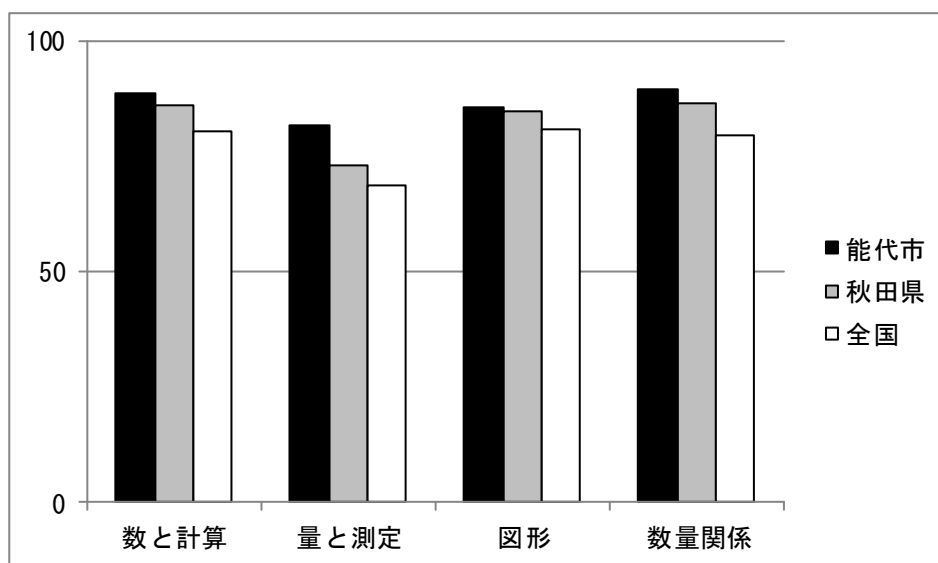
指導改善のポイントとして学校での取組

物語は、登場人物の相互関係を理解し、それらに基づいて心情や場面描写を捉えることができるよう指導します。さらに高学年は、登場人物の人物像や役割を捉え、内面にある深い心情について考えていくことも大切です。

授業の中で話し合う場面を設け、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えを話したり書いたりする学習活動を設定していく必要があります。

3. 教科に関する調査結果(小 算数A)

1 小学校算数Aについて（主として知識に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、秋田県平均を下回ったのは1問でした。(リボン2mと3mの代金を乗法で求める問題【設問1(1)】)



「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」($6 + 0.5 \times 2$)の問題については、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。
【設問2(3)】



「任意単位による測定」「底辺と面積の関係」といった、数量関係の問題でも、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。
【設問4、5】

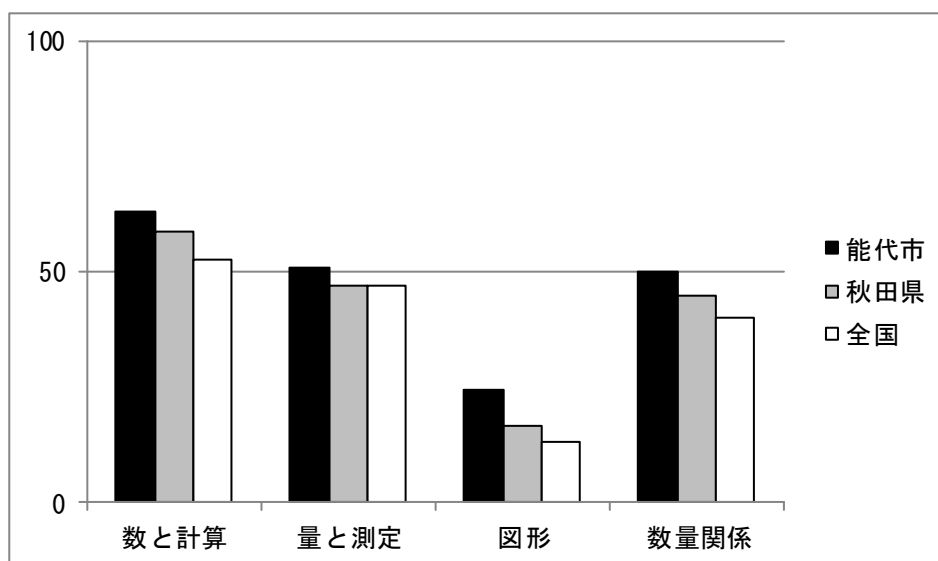
指導改善のポイントとして学校での取組

計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけでは身に付けることができません。大切なのは、具体的な場面と式の表現を結び付けながら理解させることです。(例：買い物の場面等)

また、数量関係に関しては、日々の授業の中に算数的活動を位置付け、数や量の関係性についてしっかりとまとめる活動を、今後も大切にしていきたいものです。

3. 教科に関する調査結果(小 算数B)

1 小学校算数Bについて（主として活用に関する問題）



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全11問中全てにおいて、全国及び秋田県平均を上回っています。



「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる」といった数量関係の問題については、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。【設問4(2)】



全国及び秋田県平均は上回っていますが、「規準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する」問題の正答率が低かったです。

【設問5(2)】



指導改善のポイントとして学校での取組

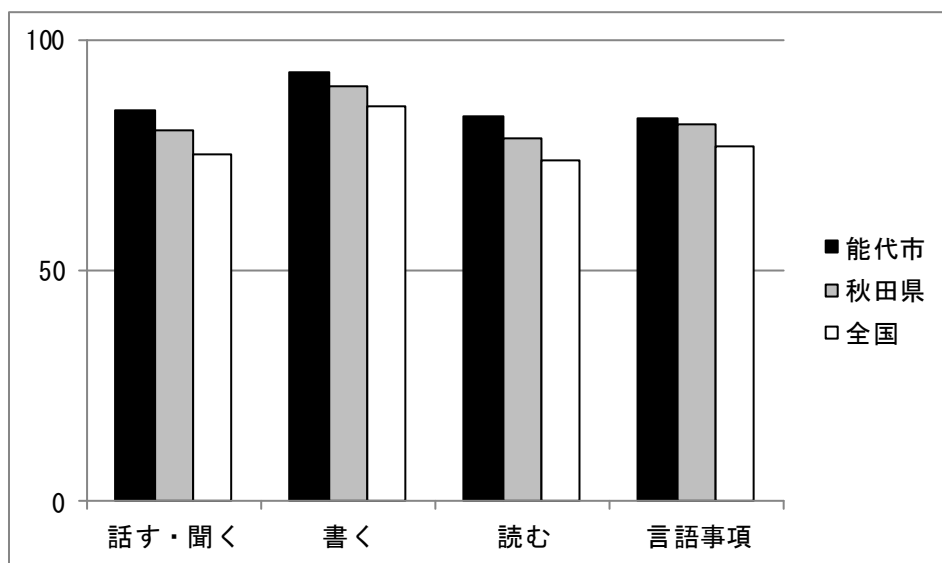
問題から読み取れる情報と場面を、図や言葉などに表し、数量の関係を的確にとらえることが大切です。

学習指導要領の「算数的活動」の中に、「説明する活動」が取り入れられています。

図や表から情報を読み取る力や説明する力を算数教育で身に付けさせることが必要です。

3. 教科に関する調査結果(中 国語A)

1 中学校国語Aについて(主として知識に関する問題)



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全 32 問中、全国平均を下回ったのは 2 問、秋田県平均を下回ったのは 3 問でした。

指導改善のポイントとして学校での取組



読むことについての問題の正答率が、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。
【設問 4-1、4-2、6-1、6-2、8-1、8-2】



「楷書と行書の違いを理解する」といった言語事項の問題の正答率が低かったです。
【設問 9-6-1】

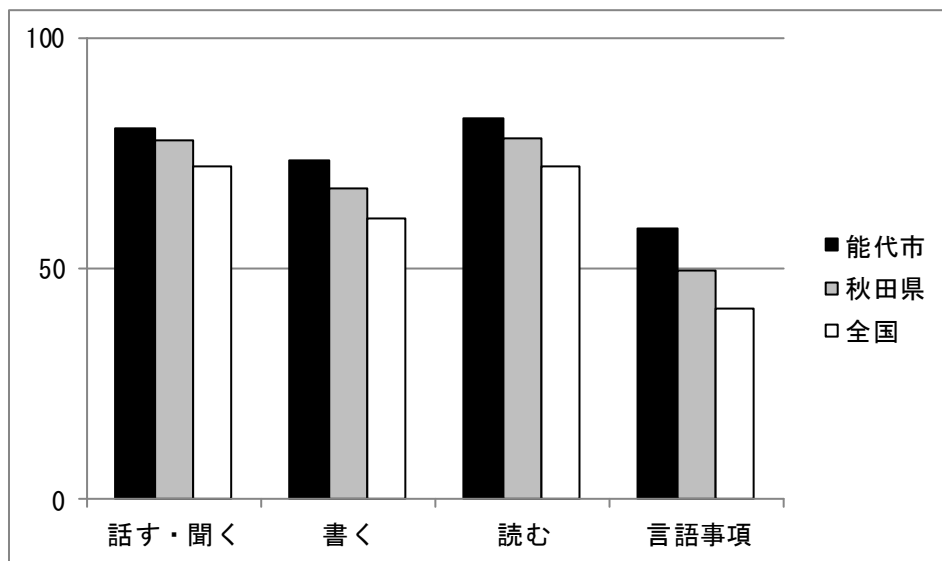


書写の指導については、「文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立つよう内容や指導の在り方の改善を図るとともに、身の回りの文字に関心をもち文字を効果的に書くよう指導する」(学習指導要領解説)としています。

行書の基礎を学習する際、同じ文字の楷書と行書を比較して、筆順・運筆などの違いを理解する活動が大切です。

3. 教科に関する調査結果(中国語B)

1 中学校国語Bについて(主として活用に関する問題)



※言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全9問中全てにおいて、全国及び秋田県平均を上回っています。



「表現の仕方についてとらえ、自分の考えを書く」といった書くことの問題の正答率が、全国平均、秋田県平均を大きく上回っています。【設問1三】



「必要な情報を集めるために見通しをもつ」といった書くことの問題の正答率が、全国平均、秋田県平均を大きく上回っています。【設問3三】

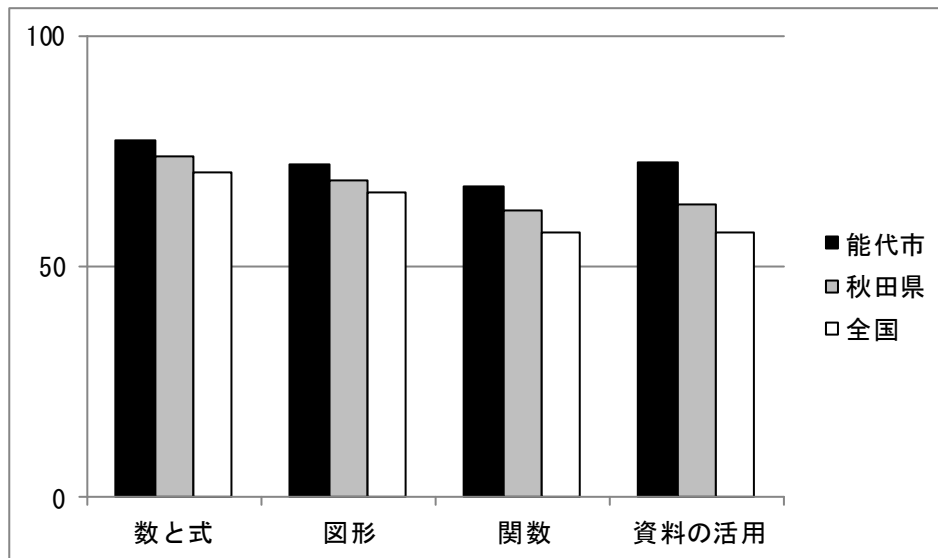
指導改善のポイントとして学校での取組

不読率が低く、普段から学校図書館の活用がされているため、読書活動が充実していることが伺われます。読書活動の一環として、普段から根拠を明確にして感じたことや考えたことを書く機会を設定していくことが大切です。

また、日常生活や社会生活の中から課題を決めて、目的や意図を明確にして書く活動も大切です。

3. 教科に関する調査結果(中 数学A)

1 中学校数学Aについて(主として知識に関する問題)



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均ともに上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全36問中、全国平均を下回ったのは1問、秋田県平均を下回ったのは3問でした。



「数量の関係を文字式で表すことができる」といった数と式の問題が、全国及び秋田県平均を10ポイント以上上回っていました。【設問2(1)】



「錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ」といった図形の問題が、全国及び秋田県平均を下回っていました。【設問6(1)】



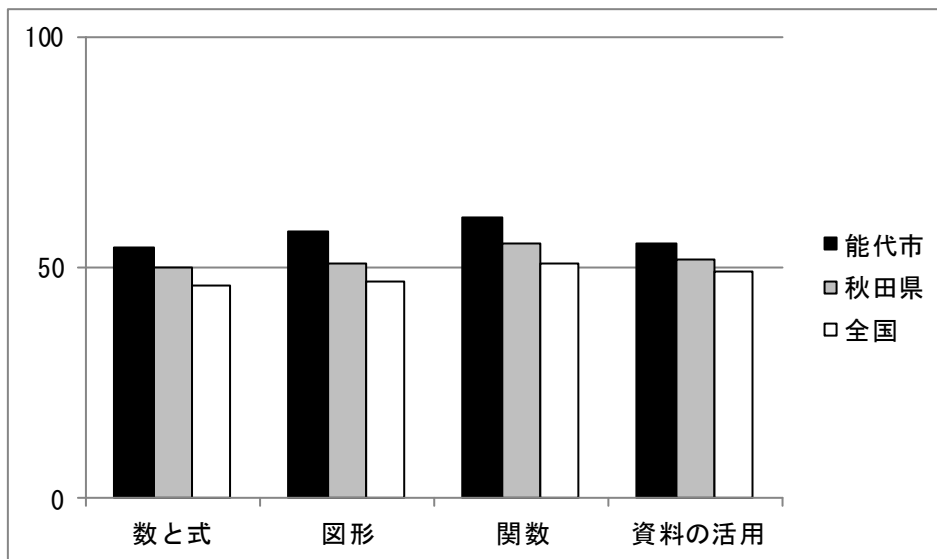
指導改善のポイントとして学校での取組

平行線や角の性質を理解し、それに基づいて図形の性質を確かめたり説明したりするためには、観察や操作、実験などの活動が大切になります。

普段の授業の中にそういった活動を設定することにより、算数・数学用語の意味をしっかりと覚えさせていくことが必要です。既習の算数・数学用語を忘れさせないためにも、数学の言語環境を整えましょう。

3. 教科に関する調査結果(中 数学B)

1 中学校数学Bについて(主として活用に関する問題)



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全15問中全てにおいて、全国及び秋田県平均を上回っています。



「与えられた式から、 a の変域に対する b の変域を求める」といった関数の問題の正答率が、全国及び秋田県平均を10パーセント以上上回っている。【設問3(3)】



「与えられた表やグラフを用いて日数を求める方法を説明する」「グラフの特徴を基に、主張している理由を説明する」といった、表やグラフから情報を読み取る問題の無解答率が10%以上になっている。【設問3(2)5(3)】

指導改善のポイントとして学校での取組

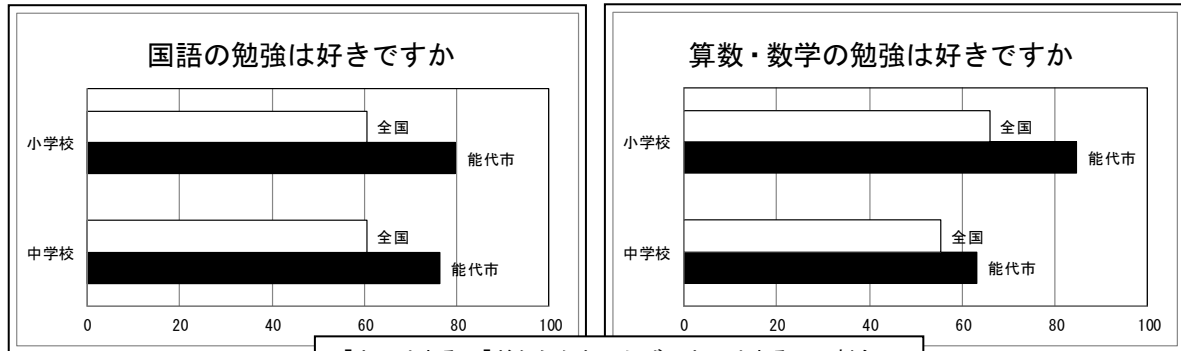
問題解決のために数学を活用する方法を考えたり、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりするためには、普段の授業でグラフや表を扱う機会を多く設定して、資料を正しく読み取る方法や傾向を判断する方法を身に付けさせる必要があります。

また、友達同士で資料から得た情報を根拠として話し合う活動も大切にしていきたいです。

4. 質問紙調査結果(1)

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

国語、算数・数学に対する関心や意欲が高い児童生徒が多い



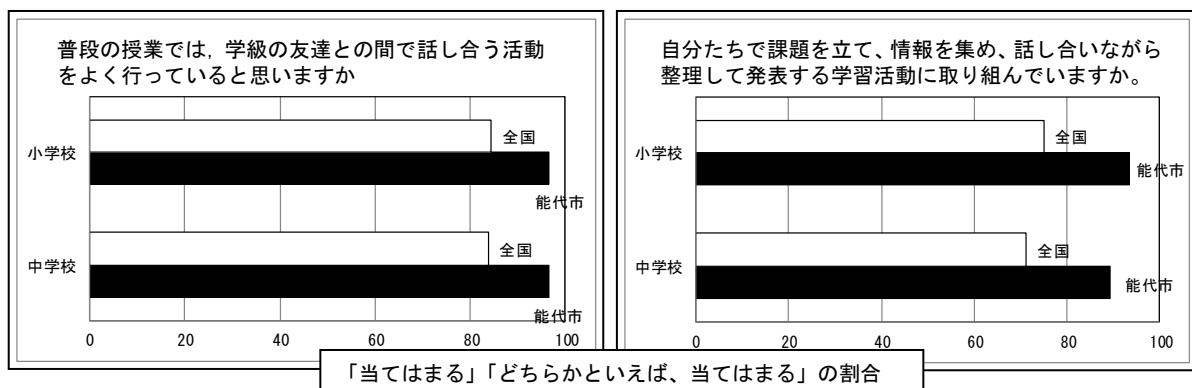
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

特に、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに、全国平均を大きく上回っています。

小学校国語・算数の「授業の内容はよく分かりますか」は90%以上、中学校国語・数学は75%以上となっています。

(2) 学習状況

- ・ 普段の授業では、話し合い活動がよく行われている
- ・ 「秋田の探究型授業」が定着している



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

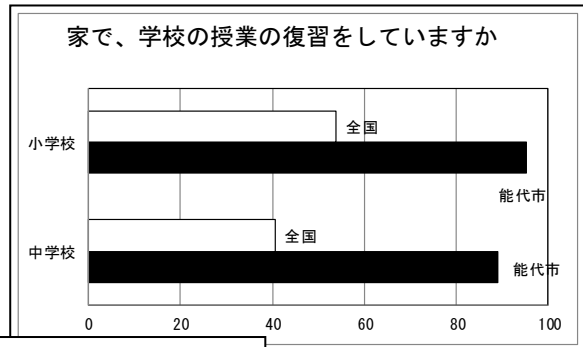
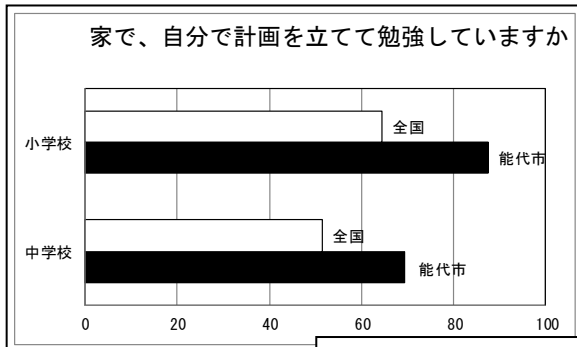
友達と話し合うことを通して、お互いに学び合う学習スタイルが確立されています。小・中ともに、全国を大きく上回っています。

秋田の探究型授業を意識した授業に取り組んでいるため、小・中ともに、全国平均を大きく上回っています。

4. 質問紙調査結果(2)

(3) 学習時間

- ・家で、自分で計画を立てて勉強する児童が多い
- ・家で、学校の授業の復習をしている児童生徒がたいへん多い



「している」「どちらかといえば、している」の割合

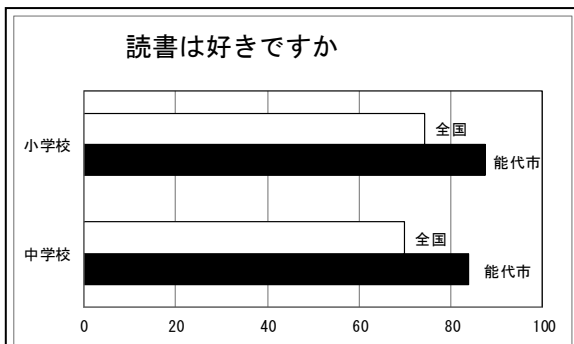
家庭学習の習慣は、家庭の協力の下、定着してきていると言えます。

※中学校の肯定的回答率は17.8P上回っているものの、秋田県平均を0.5P下回っています。

小・中学校ともに、全国平均を20P以上上回りました。予習よりも復習中心に取り組んでいることが分かります。

※中学校の予習に関しては、全国平均を7.1P、秋田県平均を14.3P下回っています。

読書に親しむ児童生徒が多い



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

図書担当教諭や学校図書支援員の方々のおかげで、学校図書館が充実してきています。

※昨年度末の学校図書館の図書標準の達成状況は、小・中学校ともに能代市の平均が100%を超えました。



能代市子ども読書活動推進計画

(平成27年度～

平成31年度)

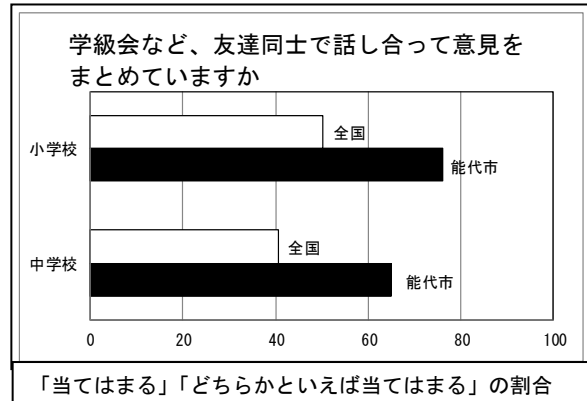
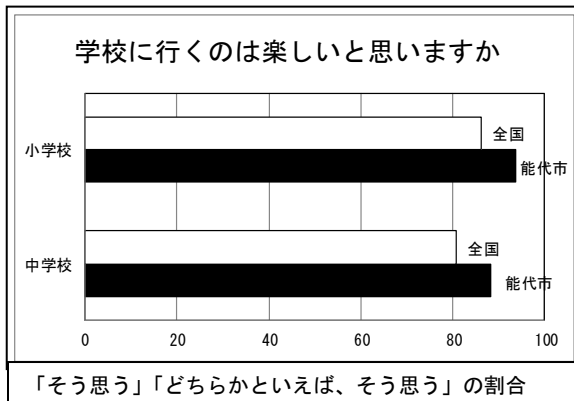
子どもの読書活動を推進するために、発達段階（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）に応じた様々な取組を行っています。

平成27・28年度と、小・中学校、全ての学年で「不読率」が県平均を下回りました。各学校の取組の成果です。

4. 質問紙調査結果(3)

(4) 学校生活

「学校に行くのは楽しい」、「友達同士で話し合っている」と思っている児童生徒が多い

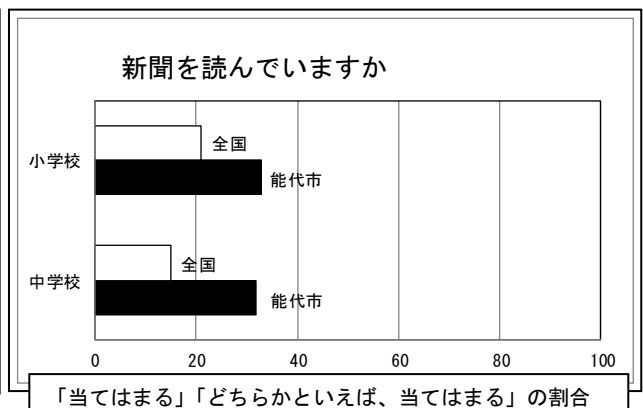
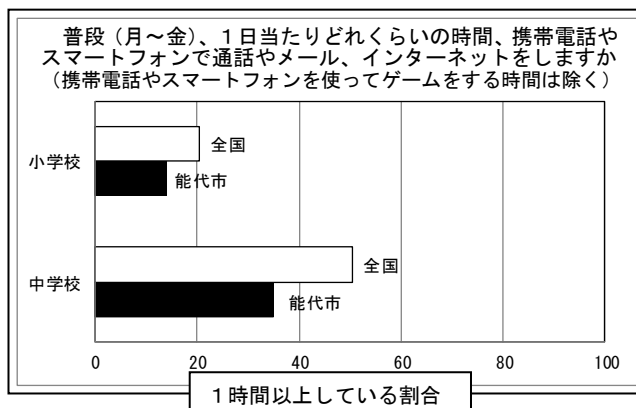


充実した学校生活を送っていることが分かります。ただし、100%ではないので、一人一人の実態を把握して対応することが大切です。

よりよい学級をつくるために話し合いを大事にしていることが分かります。
※学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことのある肯定的な割合は、小・中学校ともに90%を上回っています。

(5) 基本的生活習慣

- ・ 中学3年生の約1/4が携帯・スマホを1日1時間以上使用している
- ・ 新聞を読んでいる児童生徒が減少している



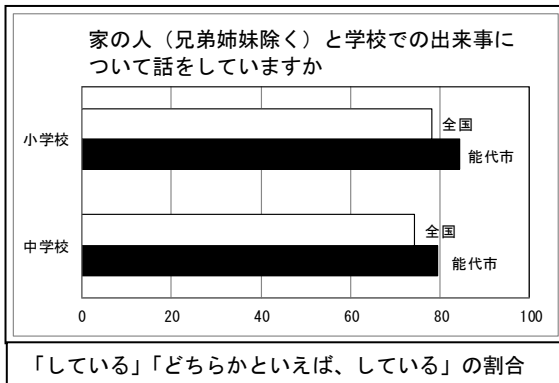
県平均や全国平均は下回りましたが、中学3年生の約1/4が平日1時間以上使用しています。また、5人に1人が2時間以上使用していると回答しています(昨年度:8人に1人)。引き続き、使用する場合のルールが大切だと考えます。

小・中学校ともに、全国及び秋田県平均を上回っていますが、昨年度より小学校が10P以上、中学校が4P下回っています。
スマホやゲーム等の使用時間の増加との相関関係が気になるところです。

4. 質問紙調査結果(4)

(6) 家庭でのコミュニケーション

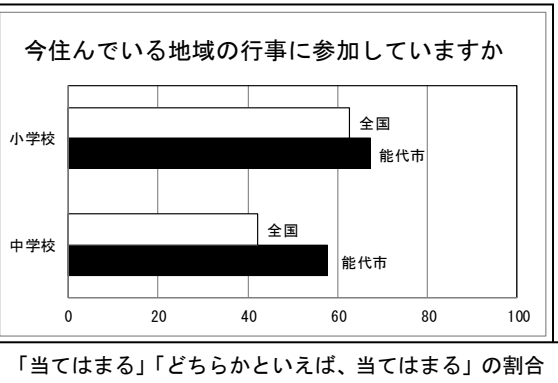
家で学校の出来事を話す児童生徒が多い



小・中学校ともに、全国及び秋田県平均を上回っています。家庭でのコミュニケーションが様々な問題の早期発見、即時対応につながっていきます。ぜひ、子どもと向き合う時間を大切にするよう各家庭に啓発してほしいと思います。

(7) 地域との関わり

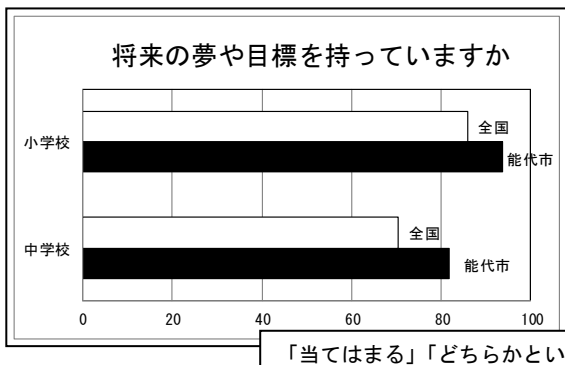
地域の行事・ボランティアに参加している



中学校では、秋田県平均を10P以上上回っていますが、小学校は5P以上下回っています。ボランティア活動への参加に関しては、小・中学校ともに全国及び秋田県平均を上回っています。

(8) 将来に関する意識

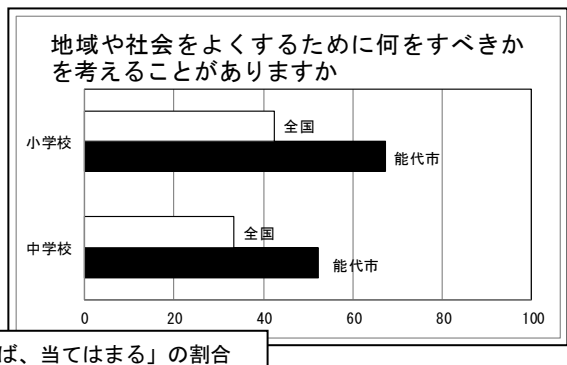
夢や目標をしっかりと持っている



各校で取り組んでいる「ふるさと教育」や「キャリア教育」が効果を上げています。粘り強く努力し続ける姿勢や様々な知識や技術等を得ようとする意欲につなげてほしいです。

(9) 社会に対する興味・関心

中学生の興味・関心が半数にとどまっている

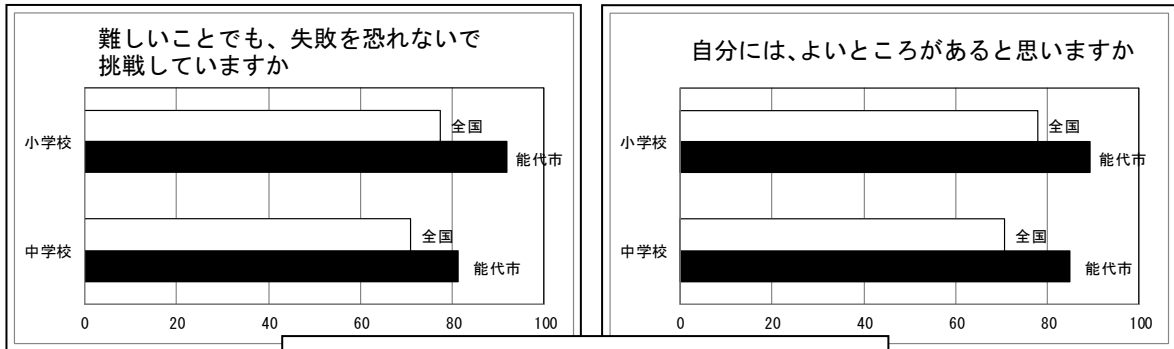


中学校が50%程度と半分にとどまっているのが気になります。総合的な学習の時間等で、地域との関わりや地域への情報発信等の活動を計画的に位置付けて取り組んでいく必要があります。

4. 質問紙調査結果(5)

(10) 自尊意識

- ・ 難しいことにも失敗を恐れず挑戦している児童生徒が多い
- ・ 自分には、よいところがあると思っている児童生徒が多い



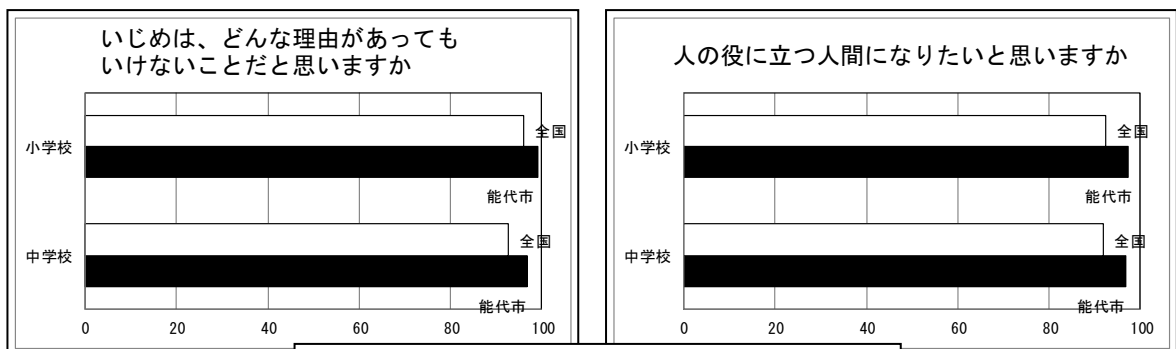
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

自分に自信をもち、前向きに物事に取り組んでいる様子がうかがえます。失敗しても励まし合える学校や学級の雰囲気づくりに心がけることが大切です。

授業や学校行事等で活躍の場を与え、褒めて認めながら自己肯定感を高めていく配慮が必要です。子ども同士でお互いのよいところを認め合う活動を、学習活動の中に位置付けることも大切です。

(11) 規範意識

- ・ ほとんどの児童生徒が「いじめはいけない」と思っている
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思っている児童生徒が多い



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

「いじめはどんな理由があってもいけない」ことについて、道徳の時間だけでなく教育活動全体を通して指導をしていくことが重要です。

一人一人に活躍の場を与え、見守り、やり遂げさせることで、達成感を味わわせましょう。また、子ども同士が認め合う等、人間関係づくりを支援しましょう。